

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第 61 期中間会計期間（2025 年 4 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日まで）の事業の概況をとりまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

当中間期の業績は、売上高 49 億 6 千 5 百万円（前年同期比 4.2%減）、営業利益 1 億 2 千万円（同 28.0%減）と、減収減益となりました。当社が重点戦略に掲げる IP 企画事業収入は、コンテンツ販売や物販が好調に推移し、同 46.0%の伸長を遂げました。また、組織体制の最適化と業務効率化による労務費の減少を含む販管費の抑制も、利益確保に寄与いたしました。しかしながら、構造的な課題であるタイムやスポットなどの放送事業収入が減少傾向にあることから、前述のプラス要因をもってしても、主力事業の落ち込みを吸収しきれない結果となりました。今後は、主力の放送事業収入の回復に取り組むことはもちろんのこと、過去 5 年で飛躍的に成長し、全売上に占める割合が約 10%に達した IP 企画事業（イベント、物販、コンテンツ販売など）を、当社の新たな収益の柱として確立すべく、より一層注力してまいります。

当社は、2025 年 4 月 26 日に開局 55 周年を迎えました。4 月にはワイド番組パーソナリティが勢揃いする 11 時間の特別番組『Life Time Music～あなたとつくる 55 年目のプレイリスト』を生放送、10 月には当社 55 周年と『桑田佳祐のやさしい夜遊び』放送 30 周年を記念した『九段下フォーク・フェスティバル'25』を日本武道館で開催し、満員御礼の成功を収めました。55 周年イヤーは 2026 年 3 月末まで続きます。これまで当社と放送を支えてくださった関係者の皆様への感謝の気持ちを込めて、今後も、特番やイベントを実施してまいります。

昨今のメディアにおける人権問題を受け、当社は公共のメディアとしての責任を果たすべく、人権尊重の取り組みを一層強化しております。2025 年 1 月の社内調査を経て 5 月に「エフエム東京 人権方針」を策定・公表いたしました。ハラスメント防止や適正な労働環境整備などを掲げ、今後も社会からの信頼確立に向けたガバナンス強化を継続してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年 12 月

代表取締役社長執行役員 唐島 夏生

第 61 期中間報告書

(2025年 4月 1日から
2025年 9月 30日まで)

事業の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、一部に停滞感がみられたものの、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復が続きました。一方、物価上昇の影響などから消費者マインドには慎重さがみられました。海外経済は、通商政策の影響を受けて動きが鈍化し、全体として先行きに不透明感が残る状況となりました。

このような状況下、当社においては、主力の放送事業収入の前年割れが続いていますが、重要課題に掲げている放送事業以外の収入の拡大を担うIP企画事業収入は、前年同期比46.0%増と引き続き好調な伸びを示しました。これは、サブスクリプションサービス会員等からのコンテンツ収入が同159.9%増と好調に推移したことに加え、同コンテンツを起点としたイベント展開も盛況で、特にグッズ販売が利益に大きく貢献したことによるものです。このようにIP企画事業は着実に成長を遂げているものの、依然として当社収益の柱である放送事業収入の落ち込みを補うまでには至りませんでした。

この結果、当中間期は、売上高49億6千5百万円（前年同期比4.2%減）、営業利益1億2千0百万円（同28.0%減）、経常利益3億9百万円（同8.2%減）、中間純利益は3億1百万円（同1.9%増）となりました。

[財務ハイライト]

(単位：千円)

	2025年度 中間期	2024年度 中間期	増減(%)
売上高	4,965,477	5,182,139	△4.2
(うち 放送事業収入)	4,452,977	4,821,043	△7.6
(うち IP 企画事業収入)	473,912	324,550	+46.0
(うち その他の事業収入)	38,588	36,544	+5.6
営業費用	4,844,751	5,014,403	△3.4
営業利益	120,726	167,735	△28.0
経常利益	309,108	336,686	△8.2
中間純利益	301,407	295,753	+1.9

<放送事業>

当社は、本年4月26日に開局55周年を迎えました。2024年10月から2026年3月末までを「開局55周年アニバーサリーイヤー」と位置付けており、当中間期には、4月に、ワイド番組パーソナリティが勢揃いした11時間に及ぶ大型特番『Life Time Music～あなたとつくる55年目のプレイリスト』を放送したほか、各番組でも55周年を記念した様々な特別展開を実施しました。

4月改編では人気グループtimeleszのメンバーである菊池風磨や、ワールドワイドなバックグラウンドを持つ俳優のディーン・フジオカを起用した新番組をスタートさせ、新たなリスナー層へのアプローチと話題の喚起を図りました。また、近年強化している番組連動イベントについても、『山崎怜奈の誰かに話しかかったこと。』『Skyrocket Company』、『SCHOOL OF LOCK!』といった人気番組のイベントを継続して実施しました。これらのイベントは夏の風物詩として着実に定番化しており、満員盛況となりました。加えて、当中間期は、新たに『ディア・フレンズ』放送30周年記念イベントや人気芸人が出演する『喋るズ』のイベントも実施し、リスナーとのリアルな交流の場を拡大しました。

また、民間放送局としてスポンサーへの価値創出にも力を入れ、企業のサービスや商品あるいは自治体の魅力等を発信するプロモーション活動を、番組コンテンツと連動させる形で積極的にサポートしました。特に、放送20年目を迎えた『NISSAN あ、安部礼司』の特別企画として実施した『ふれあいドライブ旅 2025夏』では、出演者が山口県、徳島県、岡山県を巡り、各地で多くのリスナーと直接交流しました。

これらの取り組みの結果、当中間期に実施された全3回の首都圏ラジオ合同聴取率調査において、コアターゲット「男女18～49歳」と個人全体「男女12～69歳」の双方で首位（同率含む）を獲得しました。「男女18～49歳」は2022年2月以来22期連続、「男女12～69歳」は2022年4月以来21期連続で首位を継続しています。

放送番組とデジタルコンテンツの連携によるビジネス拡大については、取引先が展開する動画コンテンツプラットフォームからの動画制作受注の終了が影響し、BtoBのデジタル収入が前年同期比14.7%減となりました。一方で、個別の施策は着実な成果を上げており、企業トップ等が出演する番組『NEW TREND ONE』と連動した動画コンテンツ関連収入が引き続き堅調に推移したほか、イベントを組み合わせたデジタル収入は伸長しました。更なる展開として、当社のradiko聴取データと外部データを連携させ、これを活用した新たなマーケティングサービスの構築にも着手しています。これにより、リスナーおよびスポンサーへのさらなる価値提供を目指します。

以上のような活動を展開した結果、放送事業の売上高は、44億5千2百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

<IP企画事業>

イベント事業においては、前述した番組連動の自主イベントの実施に注力するとともに、国内外のビッグネームのイベントやプロジェクトへの出資・参画も積極的に行い、チケット完売や当初目標を上回る来場者数を記録するなどの好結果を得て、当社のファンダム醸成にも貢献しました。

コンテンツ販売においては、プラットフォーム戦略の見直しを行い、自社音声コンテンツ配信プラットフォーム「AuDee（オーディー）」での配信を2025年9月末にて終了しました。今後、無料コンテンツはradikoを中心とした配信に移行しますが、従来から展開していた「ポッドキャストメンバーシップ（旧AuDeeメンバーシップ）」は順調に有料会員数を伸ばし、当中間期末には6万人を突破しました。放送番組との連携強化により、コンテンツの質・量ともに充実させ、期末には9万人達成を目指します。また、熱量の高い会員向けのイベントやグッズ販売が伸びており、今後も、定期的な展開により更なる収益拡大を図ってまいります。

TOKYO FM少年合唱団は、4月に創団40周年を迎え、東京と福岡で記念演奏会を実施しました。また、BS11の番組『谷川俊太郎を歌う』への出演も決定しました。

以上のような活動を展開した結果、IP企画事業の売上高は、4億7千3百万円（前年同期比46.0%増）となりました。

<その他の事業>

賃貸事業において、当社自社ビルの賃貸スペース増加により、その他の事業の売上高は、3千8百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

主なグループ会社の状況

（単位：千円）

	売上高		営業利益	
	2025年度 中間期 4月～9月	前期比 (%)	2025年度 中間期 4月～9月	前期比 (%)
ジグノシステムジャパン(株)	872,616	△17.4	119,499	△9.7
(株)ミュージックバード	235,417	+8.0	16,364	+0.9
(株)サウンズネクスト	1,088,459	△7.1	30,134	+17.1

<以下、9月決算会社のため通期業績を記載>

	売上高		営業利益	
	2024年度 10月～9月	前期比 (%)	2024年度 10月～9月	前期比 (%)
(株)ラジオDXアライアンス	287,006	—	498	—

*ラジオDXアライアンスは、設立第1期のため、前期比はありません。

中間貸借対照表

(2025年9月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	9,047,759	流 動 負 債	1,612,658
現金及び預金	7,364,788	買掛金	660,996
売掛金	1,551,677	未払金	196,885
商品	14,705	未払費用	425,732
貯蔵品	4,377	未払法人税等	24,670
前払費用	91,074	未払消費税等	34,132
その他	24,375	賞与引当金	138,203
貸倒引当金	△3,238	その他	132,538
固 定 資 産	18,748,995	固 定 負 債	705,428
有形固定資産	6,252,891	長期未払金	324,600
建築物	6,652,439	繰延税金負債	244,624
構築物	540,082	預り保証金	90,563
機械及び装置	1,948,939	退職給付引当金	45,641
車輛及び運搬具	6,978		
工具器具及び備品	2,847,637	負 債 合 計	2,318,087
土地	3,630,900	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	16,198	株 主 資 本	24,748,232
減価償却累計額	△9,390,285	資本金	1,335,000
無形固定資産	92,902	資本剰余金	935,000
商標権	1,133	資本準備金	935,000
ソフトウェア	80,237	利益剰余金	22,478,232
その他	11,530	利益準備金	134,740
投資その他の資産	12,403,202	その他利益剰余金	22,343,492
投資有価証券	3,488,713	別途積立金	5,000,000
関係会社株式	7,150,056	繰越利益剰余金	17,343,492
長期性預金	1,500,000	評価・換算差額等	730,436
長期貸付金	1,219	その他有価証券評価差額金	730,436
長期前払費用	21,482		
差入保証金	59,326	純 資 産 合 計	25,478,668
その他	250,794	負 債 純 資 産 合 計	27,796,755
貸倒引当金	△68,390		
資 産 合 計	27,796,755		

中間損益計算書

(2025年4月1日から
2025年9月30日まで)

(単位：千円)

売 上 高		
放送事業収入	4,452,977	
I P 企画事業収入	473,912	
その他の事業収入	38,588	4,965,477
売 上 原 価		
放送事業費	2,799,787	
I P 企画事業費	448,703	
その他の事業費	1,704	3,250,195
売 上 総 利 益		1,715,282
販売費及び一般管理費		1,594,555
営 業 利 益		120,726
営 業 外 収 益		
受取利息	9,912	
有価証券利息	3,000	
受取配当金	142,019	
経営指導料	31,620	
その他	2,220	188,772
営 業 外 費 用		
支払利息	366	
その他	24	390
経 常 利 益		309,108
税引前中間純利益		309,108
法人税、住民税及び事業税	20,356	
法人税等調整額	△12,655	7,701
中 間 純 利 益		301,407

中間株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から
2025年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本					
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		
		資本準備金	資本剰余金 合 計	利益準備金	その他利益剰余金	
				別途積立金	繰越利益 剰 余 金	
当 期 首 残 高	1,335,000	935,000	935,000	134,740	5,000,000	17,123,085
当 中 間 期 変 動 額						
剰余金の配当						△81,000
中間純利益						301,407
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)						
当 中 間 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	—	220,407
当 中 間 期 末 残 高	1,335,000	935,000	935,000	134,740	5,000,000	17,343,492

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金		株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
	そ の 他 利 益 剰 余 金 合 計	利 益 剰 余 金 合 計				
当 期 首 残 高	22,123,085	22,257,825	24,527,825	632,017	632,017	25,159,842
当 中 間 期 変 動 額						
剰余金の配当	△81,000	△81,000	△81,000			△81,000
中間純利益	301,407	301,407	301,407			301,407
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				98,418	98,418	98,418
当 中 間 期 変 動 額 合 計	220,407	220,407	220,407	98,418	98,418	318,825
当 中 間 期 末 残 高	22,343,492	22,478,232	24,748,232	730,436	730,436	25,478,668

第61期中間配当金支払いに関する
取締役会決議

(2025年11月28日)

当社は、株主への利益還元として、安定的な配当を每期継続して実施することを基本方針としております。この基本方針に準拠し、当社定款第46条の規定に基づき、2025年9月30日の株主名簿に記載又は記録された最終の株主又は登録株式質権者に対して、次のとおり中間配当金を支払います。

記

1. 中間配当金 1株につき 60円00銭
2. 効力発生日および支払開始日 2025年12月8日

役員

代表取締役社長執行役員	唐島夏生
取締役執行役員	小川聡
取締役執行役員	村上正光
取締役執行役員	内藤博志
取締役執行役員	川島修
取締役	前田伸
取締役	北島元治
取締役	高見和徳
取締役	山田清志
取締役	杉山恒太郎
取締役	齋藤知久
常勤監査役	大橋明夫
監査役	英公一
監査役	近藤邦弘

(2025年9月30日現在)